

## 調査詳細及びデータ

### ADK教育プロジェクト「高校生の将来意識」調査

#### < 調査概要 >

##### 【調査目的】

高校生及びその母親の生活実態や及び将来についての意識、  
大学や校外学習に関する考えや認知状況を把握し、  
彼らとのコミュニケーション戦略を立案するための基礎資料とすること

##### 【調査地域】

全国

##### 【調査対象と回収サンプル数】

4年生大学への進学を考えている下記学年の高校生及びその母親

高校1年生 200人（男女各100）

高校2年生 200人（男女各100）

高校3年生 200人（男女各100） 計600人

##### 【主な調査項目】

- ・教育・学習に対する意識
- ・将来に対する意識
- ・志望大学の検討方法
- ・主な大学に対する認知・イメージ
- ・校外学習の検討方法
- ・主な校外学習に対する認知・イメージ
- ・日常接触する情報メディア
- ・生活価値観 等

##### 【調査方法】

インターネット調査

##### 【調査期間】

2012年5月17日（木）～20日（日）

## <資料編>

### ■将来の職業について、まだ迷っている人が多数派。女子の方が就きたい職業が明確な傾向。

将来就きたい職業について、高校生全体では「現時点で明確に決まっている」のは21.5%、「2～3あり、その中で迷っている」36.0%、「まだあまりイメージがない」42.5%と、まだ明確なイメージがない人が多数派でした。

「現時点で明確に決まっている」は男子16.3%に対して、女子は26.7%と女子の方が高く、学年別では1年生17.5%、2年生16.5%に対して、3年生が30.5%と、2年生と3年生の間で差が見られます。

志望学部別では、“医・歯・薬・看護”志望者では「現時点で明確に決まっている」割合が29.9%と高いのに対し、“経済・経営・商学”で4.4%割合が低く、職業に対する意識の差が見られました。

【図1】<就きたい職業の有無> 単位:%

		n	■ 就きたい職業が現時点で明確に決まっている (1つ)	□ 就きたい職業が2～3あり、その中で迷っている	□ まだあまり就きたい職業のイメージがない (%)
全体		600	21.5	36.0	42.5
性別	男子	300	16.3	39.7	44.0
	女子	300	26.7	32.3	41.0
学年別	高校1年生	200	17.5	36.5	46.0
	高校2年生	200	16.5	40.0	43.5
	高校3年生	200	30.5	31.5	38.0
志望学部別	医・歯・薬・看護	137	29.9	35.0	35.0
	医学部	54	40.7	38.9	20.4
	歯学部	7	28.6	42.9	28.6
	薬学部	50	18.0	38.0	44.0
	看護・福祉学部	51	23.5	39.2	37.3
	理学・工学・農学	198	9.6	40.9	49.5
	理学部	102	8.8	48.0	43.1
	工学部	114	7.9	39.5	52.6
	農学・バイオ理工学部	58	3.4	36.2	60.3
	経済・経営・商	114	4.4	39.5	56.1
	経済学部	89	4.5	34.8	60.7
	経営学部	57	1.8	35.1	63.2
	商学部	27	7.4	55.6	37.0
	法学・政治学部	62	11.3	46.8	41.9
	文学・人文・教育・社会・語学	236	18.2	36.4	45.3
	文学・人文科学部	91	13.2	27.5	59.3
	教育学部	108	25.0	38.9	36.1
	社会学部	53	9.4	32.1	58.5
	外国語学・国際関係学部	78	9.0	43.6	47.4
	芸術・スポーツ・その他	117	23.9	33.3	42.7
芸術学部	34	23.5	20.6	55.9	
スポーツ学部	30	10.0	36.7	53.3	
その他	57	29.8	40.4	29.8	

## ■医学、教育、芸術、バイオ系は半数以上が中学以前に志望を決定。 経済系は高校生になってから。

志望を考え始めた時期を聞いたところ、全体の平均では「高校1年生」が37.0%と最も高く、次いで「中学生の頃」34.8%という結果となりました（自分より高い学年は回答不可）。

学部により大きな違いが見られ、医学部や教育学部、芸術学部は、50%以上が中学生以前からその学部への志望を考えていたのに対し、経営学部、経済学部、商学部は70%以上が高校生になってから志望を考えるようになっており、具体的な仕事のイメージに結びつきづらいうからか、中学生段階では志望先として意識されづらいようです。

【図2】<志望を決めた時期> 単位：%

		小学生以前	中学生の頃	高校1年生	高校2年生	高校3年生
n		n (%)				
<b>全体</b>		5.3	34.8	37.0	17.5	5.4
志望学部別	医・歯・薬・看護	11.1	37.0	35.2	11.7	4.9
	医学部	18.5	44.4	25.9	7.4	3.7
	歯学部	28.6	42.9	14.3	14.3	
	薬学部	8.0	28.0	38.0	18.0	8.0
	看護・福祉学部	7.8	39.2	41.2	9.8	2.0
	理学・工学・農学	6.2	35.8	39.4	13.5	5.1
	理学部	4.9	37.3	40.2	12.7	4.9
	工学部	8.8	28.9	42.1	14.9	5.3
	農学・バイオ理工学部	3.4	46.6	32.8	12.1	5.2
	経済・経営・商	15.6	45.7	30.1	8.7	
	経済学部	16.9	49.4	27.0	6.7	
	経営学部	8.8	49.1	31.6	10.5	
	商学部	25.9	25.9	37.0	11.1	
	法学・政治学部	4.8	29.0	38.7	16.1	11.3
	文学・人文・教育・社会・語学	3.9	40.9	31.8	19.4	3.9
	文学・人文科学部	1.1	35.2	39.6	18.7	5.5
	教育学部	8.3	45.4	26.9	16.7	2.8
	社会学部	3.8	28.3	35.8	26.4	5.7
	外国語学・国際関係学部	1.3	50.0	26.9	19.2	2.6
	芸術・スポーツ・その他	6.6	43.8	34.7	11.6	3.3
	芸術学部	5.9	47.1	38.2	5.9	2.9
	スポーツ学部	6.7	36.7	46.7	6.7	3.3
	その他	7.0	45.6	26.3	17.5	3.5

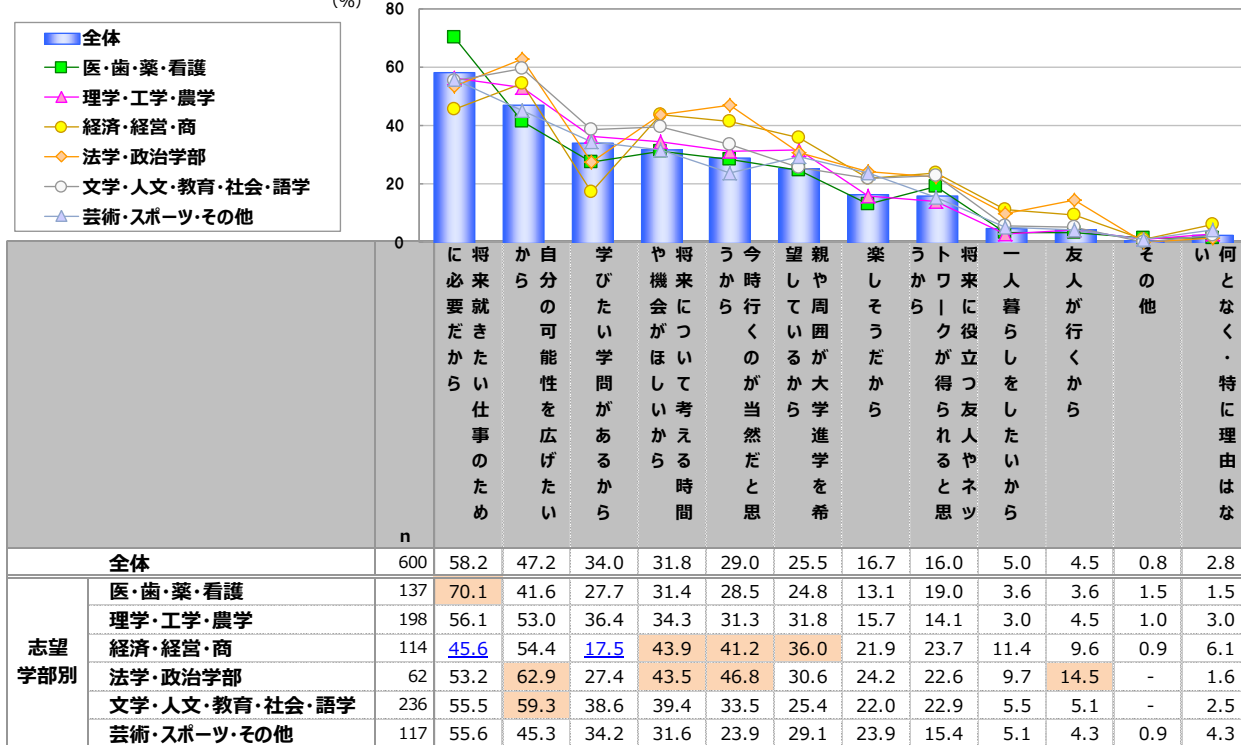
# ■大学進学は「仕事に必要」と「可能性を広げたい」が上位。志望学部により差。

大学への進学理由を聞いたところ、全体では「将来就きたい仕事のために必要だから」が58.2%と最も高く、次いで「自分の可能性を広げたいから」47.2%、「学びたい学問があるから」34.0%と続きます。

志望学部別では、“医・歯・薬・看護”志望者が「将来就きたい仕事のために必要だから」が特に高いのに対し、“法学・政治学”志望者や“文学・人文・教育・社会・語学”志望者は「自分の可能性を広げたいから」が高く、大学に期待する役割に違いがあることが伺えます。

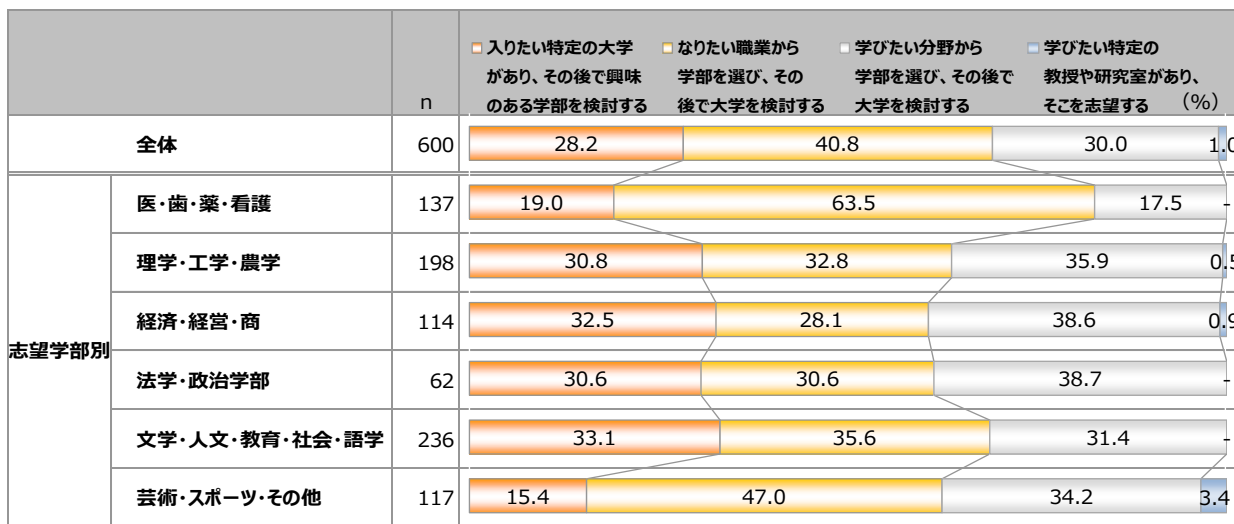
志望校の決め方についても、“医・歯・薬・看護”志望者や“芸術・スポーツ・その他”志望者は「なりたい職業から学部を選び、その後で大学を検討する」比率が特に高く、他の学部志望者との違いが見られました。

【図3】<大学進学理由> 単位:% (%)



※全体より10ポイント以上高いスコアはオレンジの網掛け、10ポイント以上低いスコアは青文字(下線付き)で表記

【図4】<志望校の決め方> 単位:% (%)



## ■大学選びに関して、親子とも就職を最重視。国際交流やスポーツは低め。

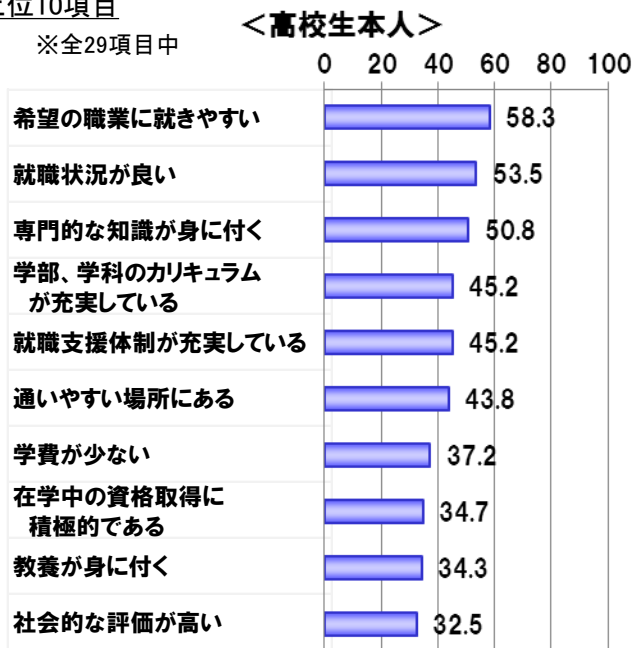
志望する大学を選ぶときに重視するポイントを、高校生本人と母親両方に聞いたところ、全体に親子の回答傾向が非常に近い結果となっており、大学選びに関して、両者の考えはかなり一致しているといえます。

重視度が高い項目としては、「就職状況が良い」「希望の職業に就きやすい」が親子とも50%以上の人が「重視する」を選んでいた他、「就職支援体制が充実している」「専門的な知識が身に付く」「学部、学科のカリキュラムが充実している」等が共通して高い一方、「有名人が通っている」「スポーツ活動に熱心に取り組んでいる」「留学生の受入が活発」等は両社とも低く、大学選びに際して、就職を非常に重視している傾向が鮮明でした。

【図5】<志望大学選択時に重視するポイント>（4段階中「重視する」の比率） 単位：%

### 上位10項目

※全29項目中



### <母親>



### 下位10項目

※全29項目中



### <母親>

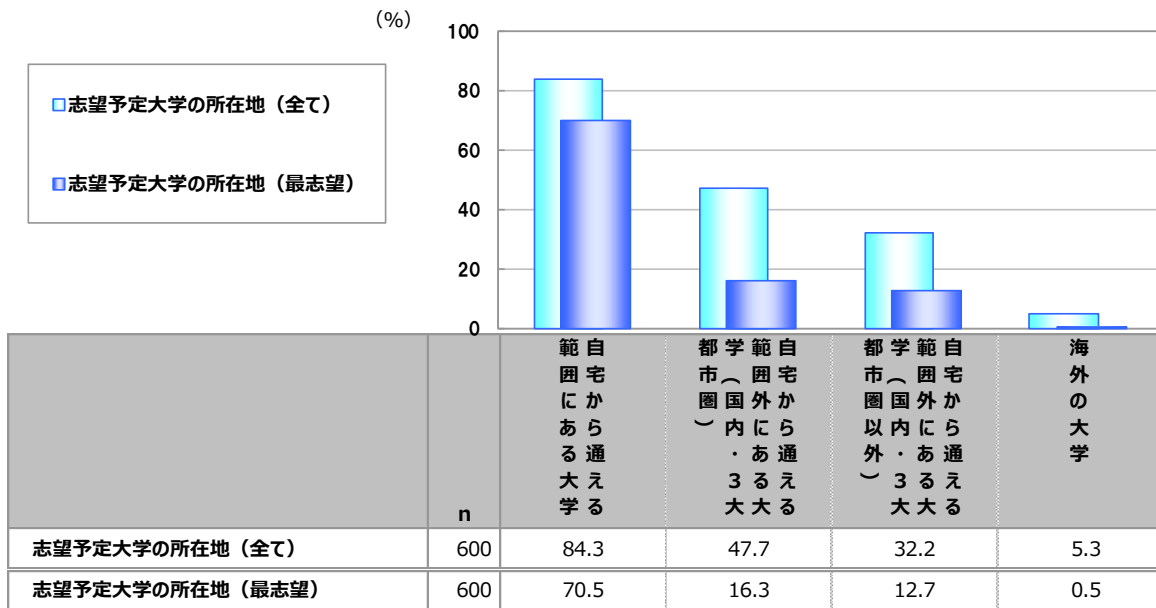


## ■大学選びは地元中心。海外の大学は対象外。

志望予定の大学の所在地は、「自宅から通える範囲にある大学」が複数回答で84.3%、最志望で70.5%と最も高くなっていました。自宅から通える範囲外では「3大都市圏にある大学」が47.7%、「それ以外」のエリアの大学が32.2%（いずれも複数回答）となっており、地元の大学を中心に考えつつ、3大都市圏にある大学等も視野に入れて大学選びを考えている様子が見られます。

「海外の大学」は複数回答で5.3%、最志望では0.5%となっており、多くの高校生にとって、検討対象になっていないようです。

【図6】<志望予定大学の所在地> 単位:%

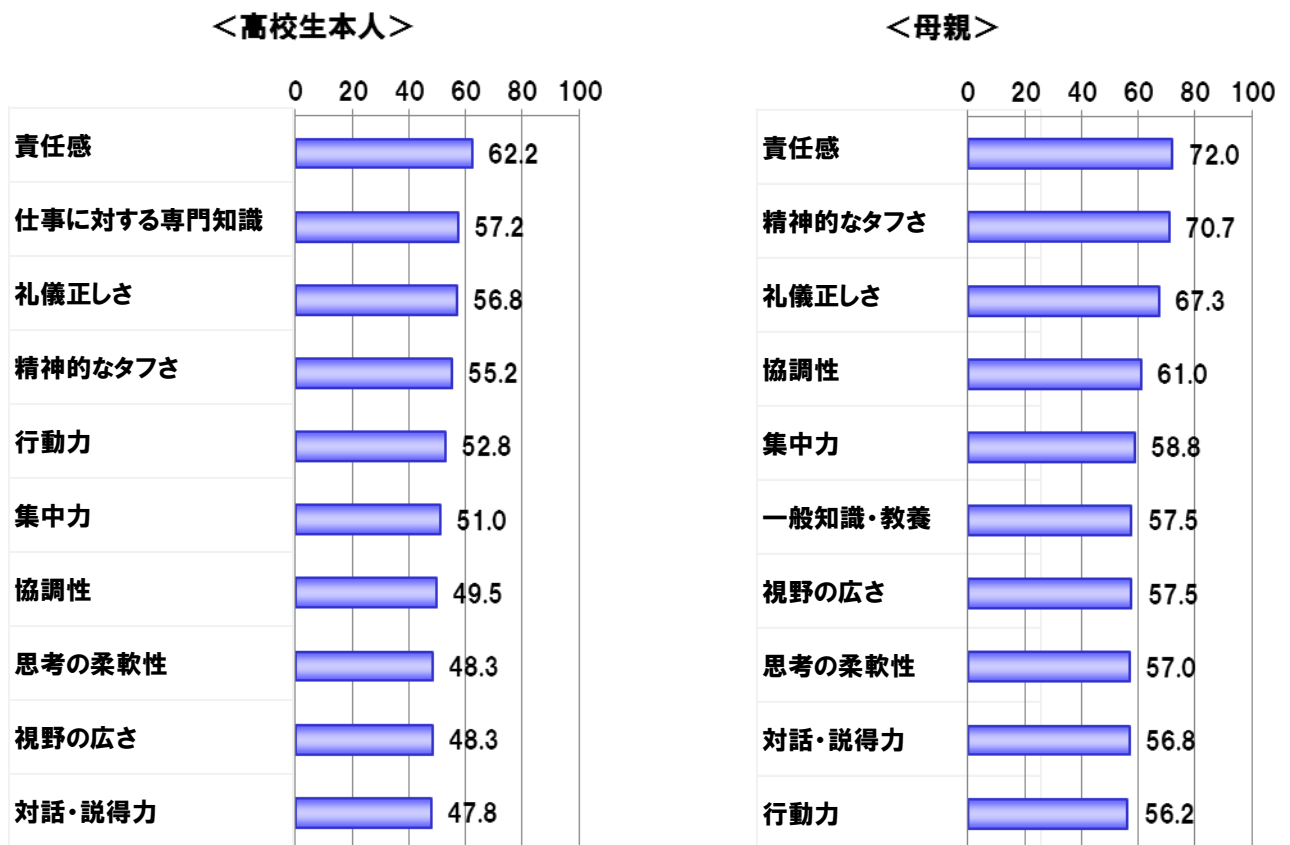


## ■社会で必要な力は親子とも「責任感」。次いで本人は「専門知識」、親は「タフさ」。

将来社会に出た時に必要とされる能力を、高校生本人と母親両方に聞いたところ、全体的に親子の回答傾向が近い結果となっており、将来社会に出た時に必要な能力について、両者の考えはかなり一致しているといえます。

高校生本人が高かった項目は上位から「責任感」「仕事に対する専門知識」「礼儀正しさ」「精神的なタフさ」なのに対し、母親は「責任感」「精神的なタフさ」「礼儀正しさ」「協調性」と続いており、本人は専門知識をより重視するのに対し、母親は周囲と協調しながらやり遂げていく力を、重視していることが伺えます。

【図7】<社会に出た時に必要だと思う能力>上位10項目（4段階中「とても必要とされると思う」の比率） 単位：%

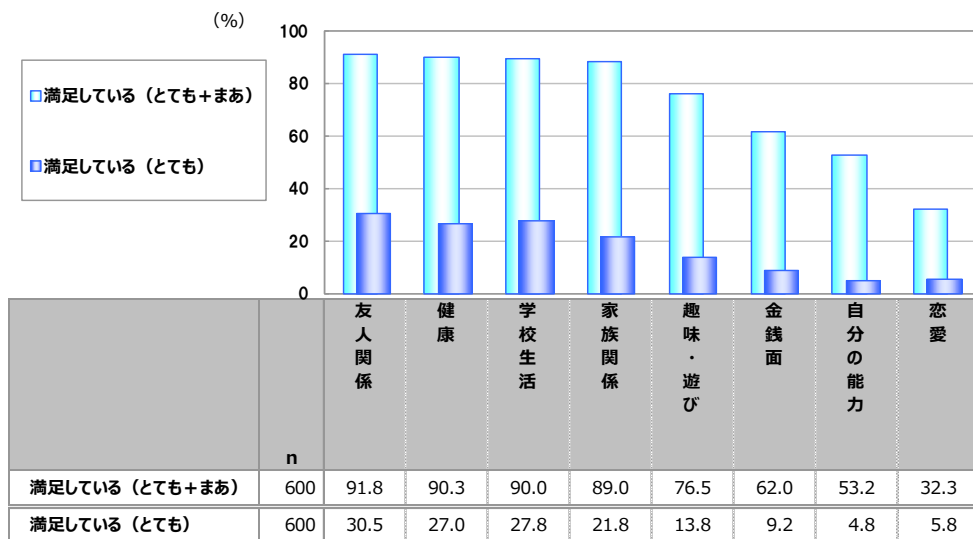


## ■現在の生活には概ね満足。日本社会の将来への不安が強い。

現在の生活における満足度について聞いたところ、「友人関係」「健康」「学校生活」「家族関係」については、90%近くが満足（とても+まあ）していると回答しており、「趣味・遊び」「金銭面」「自分の能力」についても50%以上が満足と、概ね現在の生活に関する満足度は高いようです。その中で恋愛は満足が32.3%と、他の項目に比べ、低くなっています。

また、各領域における不安について聞いたところ、「日本社会全般」が不安（非常に+どちらかという）が70.2%と最も高く、次いで「就職や働くことなど仕事面」63.2%、「地球環境」61.3%が続いています。「自分の健康」「地域経済・環境」「家族の健康」等は低くなっており、自分の身の回りよりも、日本の将来に対して、高校生は不安感を抱いているようです。

【図5】<生活の各領域における満足度> 単位：%



【図6】<将来に対する不安> 単位：%

